

代表質問

この定例会では、議案や市政全般について、各会派を代表して5人の議員が質問し、活発な議論を展開しました。

その概要は、次のとおりです。
なお、各会派の紙面の割合は、会派所属議員数に応じて案分しています。

会派名	議員数	質問時間
水曜会	13人	120分
誠友会	7人	120分
公明党	7人	120分
市民連合	5人	120分
新政クラブ	3人	120分

水曜会



石口 智志
いしくち さとし

神辺水呑線の整備は

問 県において今年度の予算案に盛り込まれており、県のホームページでは、事業費が260億円で、今年度予算が4200万円と示されている。整備概要と今年度の取り組みは。

答 全体計画は、明神町交差点の北側に位置する新福山陸橋南詰交差点から、入江大橋を渡った曙町二丁目交差点までの約2キロメートルを整備するものである。県において新規事業として示された事業概要は、平面街路全線および橋梁と高架道路のうち、入江大橋北詰交差点付近の一部を整備し、福山道路と接続する予定となる。
今年度は平面街路に係る調査設計を行うと県からは聞いている。

インターネットでの視聴も便利です。

各議員記事のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると代表質問の録画が視聴できます。
インターネットの福山市議会映像配信では生中継の配信も行っておりますので、次回6月定例会開催時には、ぜひご活用ください。



国際交流の取り組みは

問 親善友好都市への訪問や昨年10月の南米4カ国における南米県人会主催の創立周年記念事業に参加し交流を深めたことなど、本市は近年、国際交流を積極的に推進してきた。国際交流の意義は。

答 今年はハミルトン市と親善友好都市提携を結んで50年の節目の年に当たる。市議会議長を団長とする訪問団が同市を訪問し、市長との面会や、現地の方々との交

流を行う予定となっている。これをきっかけに、かつてのような活発な交流の復活につながることを期待している。

また、パラグアイ共和国との間には、戦後、旧沼隈町を中心に町ぐるみで移住した歴史があり、今日においても、ふるさと福山に対する深い思いを持っておられることを知り、交流を活性化させていくことの大切さを感じた。現地との交流を継続する仕組みをつくるとともに、移民の歴史を伝える講演会などを行っていきいたいと考えている。

新たな産業団地の造成は

問 福山北産業団地第2期造成工事は2023年9月に完成し、2025年3月には全区画が完売した。

答 工事完成後においても新たな産業団地造成を求める声がありその動向は本市の経済活動や市民活動に大きく影響する。特に移住と定住の促進に向けては追い風となると考える。

新たな産業団地の現時点での検討状況は。

答 新たな産業団地については、2024年度に市内全域から地形や交通の利便性などを勘案し複数の候補地を選定した。2025年度中には、インフラの整備状況や工事の難易度などを総合的に比較検討し、最終候補地を決定する。

2026年度は、宅盤や道路の配置などを取りまとめた土地利用計画を作成し、これを基に、事業の採算性を検証する中で、事業化の判断を行っていく。